

2017年9月1日

《報道資料》

KDDI 株式会社  
国際ケーブル・シップ株式会社

## 日本初、通信・電力・観測資源探査に対応した 「海底ケーブル敷設船」の建造について

KDDI 株式会社と KDDI グループ会社である国際ケーブル・シップ株式会社（以下、KCS）は、2019 年度の運航開始を目途に、新たに海底ケーブル敷設船を建造することを決定しましたのでお知らせします。



完成イメージ図

KCS は、1967 年よりケーブルハンドリング機器を装備した海底ケーブル敷設船を、太平洋・アジア域に広がる光海底ケーブルネットワークの建設・保守に活用しており、現在は KDDI オーシャンリンク、KDDI パシフィックリンクの2隻を運用しています。



KDDI オーシャンリンク

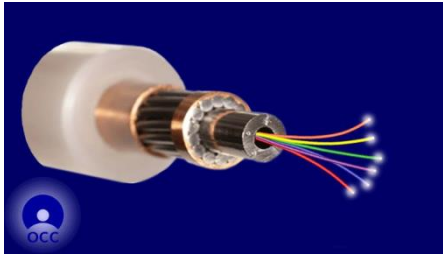


KDDI パシフィックリンク

新しい海底ケーブル敷設船は、通信ケーブルの敷設及び修理で培ったノウハウを用いることで、これまでの通信ケーブル、観測・資源探査ケーブルに加え、日本で初めて（注1）、電力ケーブル工事への対応が可能となります。

これにより、浮体式洋上風力発電設備等に用いられる電力ケーブルについて、耐候性の高い海底ケーブル敷設船での工事を実現します。

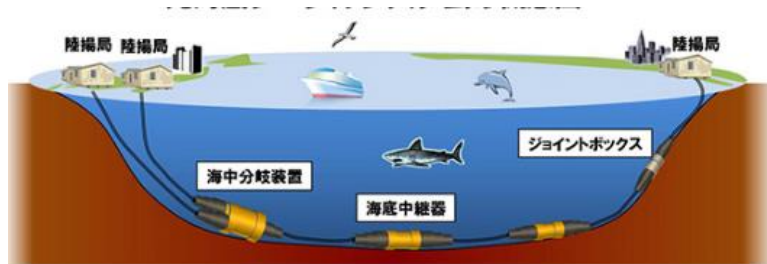
さらに、航行距離や速度向上により、適用海域も現在の太平洋、アジア海域から全世界に拡大するとともに、格納型アジマススラスト（注2）を採用するなど、悪天候下における耐候性ならびに定点保持能力を高めます。



深海用通信ケーブル(約 17mm)  
写真提供:株式会社 OCC



電力ケーブル(約 200mm)  
写真提供:古河電気工業株式会社



光海底ケーブルシステム イメージ

海底ケーブルは、日本の国際トラフィックの 99% (注 1) を収容する重要な社会インフラです。KDDI と KCS は、最新の海底ケーブル敷設船ならびに最新 IT 技術を導入していくことで、今後も船舶運航及び洋上工事における IT 改革を推進するとともに、これまで以上に信頼性の高い通信サービスを提供していきます。

■海底ケーブル敷設船 主要目 (予定)

1	総トン数	約 9,500 トン
2	全長	113m
3	全幅	21.5m
4	定員	80 名
5	速力	13 ノット
6	牽引力	80 トン
7	船籍	日本

(参考リンク)

「"海上"が勤務地です!」。光海底ケーブル敷設で世界の通信網を支える

<https://time-space.kddi.com/feature/genbadamashii-sp/20150717/index.html>

注1) 2017 年 9 月 1 日時点。KDDI 調べ。

注2) 船舶のプロペラ軸が水平方向に 360 度回転する装置で、船を任意の方向への移動すること、定点で位置を維持することに使用する装置。未使用時は船底に格納することができます。